

朝の館内放送

令和5年8月7日

おはようございます、市長の中村健です。

6月から2度目の育休を宣言し、夕方以降の公務を取りやめています。

4年前に初めて宣言した際には、否定的な意見も少なくありませんでしたが、この4年間で世間的な受け止め方もかなり変わってきたというのが正直な印象です。

政府が定めた「こども未来戦略方針」にも、「男性育休の取得促進～男性育休は当たり前になる社会へ～」との記載があり、男性の育休取得が少子化対策に果たす役割がようやく認められてきたと感じます。

さて、2度の育休を経ての個人的な経験を少し申し上げれば、プライベートな面では家族の絆がとても深まったと思います。

自分自身の父親としての自覚も強くなったし、子どもたちのちょっとした変化や成長にも気づくことができるようになりました。

子育ては、仕事のように一定のルールがあるわけではないし、予定外のことも頻繁に起こるので、忍耐力も高まったし、物事を進める段取りの力も高まりました。

こうした部分は、仕事でも生かせる面だと考えます。

また、仕事においては、何といたっても生産性の意識が高まりました。

限られた時間で従前と同じかそれ以上のパフォーマンスを発揮するためにはどうすればよいか、それを考える癖ができました。

男性職員が育休を取得することは、キャリア形成の面でマイナスに働くという考え方もあるようですが、むしろ逆で、様々な経験をして人としての幅が広がることは、キャリア形成の面でプラスに働くことの方が多いと考えます。

誰がどれくらいの期間の育休を取得するのかは、それぞれの家庭で考えるべきことだというのが前提ですが、なるべくなら男性職員にも取得してほしいと思います。

同僚の職員が気兼ねなく取得できるような職場の空気を創れるよう、一人ひとりの協力をお願いして、朝の館内放送を終わります。